

国際理解と平和 ～未来の平和のために～

佐藤愛子・岡村 明
石川久美・山田 貴久
隅田久文

【抄録】 広島への原爆投下に関する学習を中心軸として、平和学習をした。グループごとにテーマを設定し、調べ学習および広島でのフィールドワーク、そして学年末に、ポスターによる研究発表を行った。並行して国際理解に関する活動も行った。生徒は、平和と国際理解が何であるのか、平和と国際理解がどのようにリンクしているか、今後自分たちができることは何かについて、それぞれの答えを導き出した。グループでの活動であり、コミュニケーションの大切さも同時に学んだ。

【キーワード】 平和学習、国際理解、広島、原爆、グループ学習、フィールドワーク

1. 学年目標、ねらい、伸ばしたい力

- (1)戦争などの事実を共感的に受け止め、平和の尊さについて考えさせる。
- (2)国際理解と平和の関係をとらえ、どのように考え、行動すべきかを見つけさせる。
- (3)「平和」についてさまざまな立場からとらえさせる。

2. 活動内容、学習方法

1年間を通して、日本における戦争に関する歴史的背景を学ぶ。戦争をさまざまな視点からとらえ、その学習を通して、現代・未来へとつながる平和について考えた。また、平和を求めるときに、国際理解がどのように影響をするかということ考えた。

平和学習に関しては、8人前後のグループでの活動を行った。グループごとにテーマを立て、それらに沿って調べ学習、体験学習、フィールドワークを行った。それらの活動を通して、さまざまな情報源から、戦争や原爆についての知識を得た。それらをもとに、戦時中や戦後の生活や人々の心境、社会情勢や環境について考えた。また戦争体験者、被爆体験者の話やフィールドワークでのインタラクティブな情報収集からより深く戦争について考える機会を得た。なぜこういった戦争が起きたのかを現代につながる問題としてとらえ、グループごとに結論づけた。

国際理解に関しては、シミュレーションゲームや調べ学習を通して、人と人、国と国のつながりを感じ取る機会を設けた。また、平和学習をすすめるなかで、戦争中や戦後の国際関係についての理解を促した。

これらの戦争という視点からの歴史的背景を踏まえ、今、世界では何が起きているのか、生きるために、誰がどのような援助を必要としているのかを想像し、平和

な世界を築き、維持していくために必要な思考、行動についてグループおよび個人で考えた。

3. 評価方法と基準

(1)方法

- ・事前学習の取り組み、FWの取り組み、学習発表、集録の作成

(2)基準

- ・戦争の歴史を知り、共感的に受け止め、平和の尊さを理解できる。
- ・国際理解と平和についての自分の考えをまとめ、表現できる。
- ・多面的にものごとをとらえ、自分の考えをまとめることができる。

4. 系統性

(1)前年度とのつながり

前年度中学2年生においては、「生命と環境」というテーマのもと、命の大切さについて学んだ。本年度は、命を大切にできる環境のひとつと考えられる平和の大切さを考えた。また、平和についてより深く、多面的に捉えるために国際的な視点を持ち、広くさまざまな人の立場から平和を考え、人と人の関わりについて考えた。

(2)持続可能な開発のための教育（ESD）との関わり

被爆国としての視点、また国際的な視点で平和について考えた。今、そしてこれからの世界の平和のために出来ること、すべきことを個人レベルで意識できるようにした。また、そのために必要な国際理解に必要な異文化に対する考え方についても取り上げる。

5. 授業計画および研究旅行日程

| 回 | 日 | 内容 | |
|----|--------|-------------|---|
| 1 | 4月14日 | 国際理解 | 貿易ゲーム |
| 2 | 4月15日 | オリエンテーション | テーマ、年間計画提示 (授業参観) |
| 3 | 4月28日 | | マインドマップ キーワード=「国際理解」「平和」 |
| 4 | 5月12日 | 平和学習 | 世界大戦について 社会科の教科書を用いて学習 杉原千畝さんについて ビデオ鑑賞 |
| 5 | 5月15日 | 見学 | 杉原千畝資料館見学 (平和) リトルワールド見学 (国際理解) |
| 6 | 5月26日 | 平和学習 | 原爆「きみはヒロシマを見たか」ビデオ鑑賞 原爆資料館パンフレットを用いて学習 |
| 7 | 6月9日 | | 原爆について個人での調べ学習をレポート提出 |
| 8 | 6月16日 | | 戦争体験者講話 ピースあいちより2名の語り部さんを招いて、講話 |
| 9 | 7月4日 | グループ学習 | グループ決め、係決め 個人研究発表 (6/9のレポートをグループ内で発表) グループテーマ決め (7月中) |
| 10 | 夏休課題 | | グループテーマに関して、個人で調べ学習 →個人レポート作成 及び、フィールドワーク先の候補を探す |
| 11 | 9月29日 | | FWアポ取り、平和のリボン作成 事前学習発表会準備 |
| 12 | 10月3日 | | FWアポ取り完了 |
| 13 | 10月13日 | | 依頼状・質問状の作成・送付、平和のリボン完成 |
| 14 | 10月31日 | | 事前学習発表会 (クラスにわかれ、班ごとに発表) 平和のリボン披露 |
| 15 | 11月10日 | | 研究旅行 |
| 16 | 11月17日 | グループ学習 | お礼状送付、集録原稿執筆、FW研究発表準備 |
| 17 | 12月8日 | | 集録原稿下書き完成、FW研究発表準備 |
| 18 | 1月12日 | | 集録原稿完成、FW研究発表準備 |
| 19 | 1月26日 | | FW研究発表会 (2クラス合同) |
| 20 | 2月16日 | まとめ 国際理解 | まとめ バーンガ (シミュレーションゲーム) |

研究旅行日程

| | | | | | | | |
|----------------------------|-----------|---------|---------|------------|------------|-------|-------|
| 11月10日 (木) | | | | | | | |
| JR名古屋駅 | 名古屋駅 | のぞみ7号 | 広島駅 | 広島 | 広島フィールドワーク | | |
| 7:50集合 | 8:35 | | 10:55 | 11:15 | | | |
| 宿舎 (原爆ドーム近く) | 夕食 | 被爆者体験講話 | 部屋長・班長会 | 入浴 | 就寝 | | |
| 16:00~17:00 | 17:30~ | 18:30~ | | | 22:30 | | |
| 11月11日 (金) 起床 7:00 朝食 7:30 | | | | | | | |
| 宿舎 | 平和セレモニー | 記念写真 | 平和記念資料館 | 平和公園散策 | | | |
| 8:45 | 9:00 | | 9:50 | 10:30 | 11:25 | | |
| 昼食 (相生にて) | 忠海港 | 大久野島 | 毒ガス資料館 | 島内散策 (自転車) | 宿舎 | | |
| 11:30 | 12:30 | 14:00 | 14:42 | 15:00 | 15:30 | 16:50 | 17:00 |
| 夕食 | キャンプファイヤー | 入浴 | 部屋長・班長会 | 就寝 | | | |
| 17:40 | 19:00 | 20:30 | | 22:30 | | | |

| | | | | | |
|-------------------------|-------|-------|-------|-------|---------|
| 11月12日(土) 起床7:00 朝食7:30 | | | | | |
| 13:00 | 13:20 | 14:40 | 15:31 | 17:29 | 17:40解散 |

6. 生徒が設定した研究テーマおよびFW先一覧

生徒は、最初の2ヶ月で戦争の基本的な事項について個人で学習し、そのうち各8人ほどのグループに分かれて、学年末の学習発表までグループ活動を行った。以下に、各グループの研究テーマと研究の目的、および研究

のためにお話を聞かせていただいたフィールドワーク先をまとめる。フィールドワークはすべて広島市内で行われた。

| 班 | 研究テーマ 目的 | FW先 (すべて広島) |
|----|--|-----------------------|
| 1 | 被爆からの広島の復興～町と人々の生活～ 復興中の様子を知ることにより、平和への理解を深める | 広島市役所都市整備局都市計画課 |
| 2 | 原爆と被爆者の生き方 被爆者の方に、被爆当時の心境や行き方のお話を伺う | 広島県原爆被爆者団体協議会 |
| 3 | 戦時中の食生活 戦時中の食生活を知り、平和の大切さを考える | 被爆証言の会 |
| 4 | 原爆は世界をどう変えた？ 世界の人から見た原爆 | 広島市立大学広島平和研究所 |
| 5 | 広島の復興に世界がどう手を差し伸べたか 復興を知り、世界からの支援を知ることによって平和と国際理解を深める | 広島市立大学広島平和研究所 |
| 6 | 原爆の残した爪痕 病院の先生に話を聞くことで、後遺症などの「原爆の残した爪痕」についての理解を深める | 日本赤十字社広島赤十字原爆病院 |
| 7 | 原爆の心身への影響～精神面・体内被曝～ このFWを通して、被爆者の精神的苦痛と現状について知るため | 広島原爆養護ホーム 神田山やすらぎ園 |
| 8 | 放射線が町や人に及ぼした影響 主に放射線による人体と街への影響について調べる | 放射線影響研究所 |
| 9 | 被爆者の生活について 被爆した方に直接お会いして話を聞き、当時の生活について知る | 平和と安全を求める被爆者たちの会 |
| 10 | 放射線が人体に及ぼす影響 当時の病気の苦しみ、現在まで続く後遺症を調べる | 広島大学原爆放射線医科学研究所 |

上の表以外のフィールドワーク場所を以下にまとめる。原爆や戦争、広島の人々の現在にいたるまでの暮らしについて知見を広めるために各グループで選び、訪問した。

旧庁舎資料展示室、袋町小学校平和資料館、本川小学校平和資料館、広島城、比治山公園

7. 国際理解についての学習

国際理解についての学習をすすめるために、貿易ゲームとBarnga (バーンガ) の2種類のシミュレーションゲームを行った。また、

(1) 活動内容について

1) 貿易ゲーム

貧困問題をゲームで体験的に学ぶ。紙(資源)や道具(技術)を不平等に与えられた複数のグループ

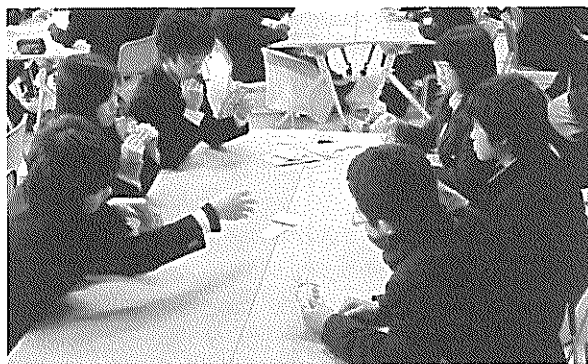
(国家)の間で、できるだけ多くの富を築くことを競う、貿易のシミュレーション・ゲームである。同じルールの下でも、あらかじめ不平等な初期条件を設定しておくことで、豊かなグループはより豊かに、貧しいグループはより貧しくなるというように、経済格差が拡大していく仕組みを、現実の自由貿易システムと対比しつつ体験的、共感的に理解する。

生徒は手持ちの資源や技術をなんとか駆使し、貿易をしようとしたが、様々な制限により国家間に格差がうまれたり、紛争が起こったりした。生徒たちは、社会や人間の心が、理想と現実ではずれがあることに気づき、世界が協力し合って相互的に良くすることの難しさを体験的に学んだ。

2) Barnga

トランプを使ったゲームを通して、異文化におけるコミュニケーションの難しさを体験的に学ぶ。グループをひとつの文化集団として独自の文化を設定する。生徒はそのグループ間を移動することによって、異文化と出会う。そこで起こる心理的困難や、対処法などに気づいていく。それによって、国家間に限らず、日常生活の中にもありえる文化の違いに対する自分自身や周りの反応の傾向を知ることができる。

この活動は1年の最後に行われたため、国際理解の大切さについて学んだあとであったが、知識やそれぞれの国際理解についての考えがあっても、ゲームのなかではそれが生かされず、排他的・威圧的・一方的なコミュニケーションなどが見られ、否定的な感情を抱く生徒も少なくなかった。振り返りにおいて、「当たり前前のが当たり前でない衝撃」、「人の思い込みを正すのが難しかった」、「違う班に行ったとき、その班の人がおかしいのか自分がおかしいのか、困惑した」「丁寧に教えてもらっても、自分が不利になった気がした」というネガティブな感想が多く見られた。一方で、「自分が移動を経験したあとだったので、混乱しているであろう状態を察して、配慮できた」「ゲームは進まなかったが、説明するのが楽しかった」といったポジティブに対応した例も見られた。個人差があるものの、異文化を疑似体験し、その面白さや難しさを感じることができた。



(写真) バーンガ：言葉は話してはいけないというルールのため、ジェスチャーや表情で意思を伝えようとする生徒。

(2)国際理解と平和の関係についての生徒による考察

- ・なかなか互いの国のことを理解するのは困難なことであると思った。
- ・もっと世界のことを知らなくてはいけないと思った。
- ・全面的な平和を地球単位で謳いたい。
- ・強いものはさらなる強さを求めるため、他に目がいかなくなるのがよくわかった。所詮、立場の違う者同士は真の意味での理解はできないと思う。
- ・日本が日本のなかで正当化されている。日本人が気にしていなくても、他国は反感を持ち続けていることもあると思う。
- ・一方的に自分の意見を言うだけでなく、双方が納得する話し合いをすることが平和に向けて大切である。
- ・いろいろな資料や意見を見聞きし、いろいろな角度で考えることが大切。
- ・偏った一方的な情報に流されずに、様々な資料を用いて自分の意見を出すべきだと思った。

8. 平和学習

平和学習は、広島への原爆を中心に、戦争の歴史を学び、そこから平和とは何か、未来の平和のために今何ができるかということについて考えた。

(1)活動内容について

前述の授業計画のとおり、個人学習ののち、グループ学習を行った。グループごとにテーマを掲げ、調べ学習およびフィールドワークでの対話を持ち、学年末にポスター形式で研究発表を行った。戦争や原爆の中を生き抜いた人々に実際に会い、お話を伺うことで、より現実味を持って戦争のことを考えることができたという意見が多く見られた。この貴重な経験を通して、より意欲的に活動に取り組み、より戦争や平和についてより深く考察することができた。

原爆については、アメリカ・日本という加害・被害の立場や、国・国民といった社会的な立場のちがいを見極め、それぞれ興味のあるところに焦点をあてて研究を進めた。ポスター発表での意見交換も含め、さまざまな視点から原爆について考え、そこから平和についてまで考えることができた。また、福島原発事故における放射線の影響が連日報道されていた時期でもあったが、原爆の放射線の影響について調べるうちに、報道をクリティカルに捉えるようになったことも興味深い変化であった。

(2)原爆、平和についての生徒の考え

- ・日本とアメリカの認識の違いを実感した。
- ・戦争を続けていると、いずれ何もなくなってしまふ。
- ・戦争中は、人間として生きていくための最低限必要なことでも、できないことがある生活を強いられていた。
- ・原爆など大きな被害の他にも、様々な小さいけれどもとても苦しく、大変な物事があったのだと知った。目につくことだけがすべてではないことがよくわかった。
- ・「今の世界は異世界のようだ」という言葉が衝撃的であった。
- ・アメリカが日本に原爆を落とし、アメリカは勇者の面、日本は被害者の面をかぶった。
- ・アメリカにも核廃絶に向けて運動している人がいることがわかった。
- ・世界平和を考えるうえで、各国考え方が違うのは当たり前のこと。
- ・核廃絶のためには、結局核を持たないことによる経済的利点を話したほうが有効である。
- ・他国での戦争中の生活や国民の犠牲がどのようなものであったのか知りたい。
- ・人種差別や土地の奪い合いをやめるようにしなければならない。国同士の対立の原因や、なぜそういう状況に陥ってしまったのかを調べてみたい。
- ・戦中は戦争を喜んでいた人もいたそうだ。教育は怖いと思った。
- ・今も核兵器を保持しているような国について知りたい。
- ・日本の復興を知ってほしい。
- ・国が核を作ることにに対し、国民が意義を唱えれば、核廃絶も夢ではない。
- ・過去を学ぶことは重要だが、それを今・未来に活かすのが私たちの使命だと思う。



(写真) 研究発表の様子

9. 成果と課題

学習をはじめた時点で、平和と国際理解について、それぞれにメディアから仕入れた情報を持ってはいた。しかしながら、それらは表面的なものであり、大きなテーマに漠然としたイメージを持つだけであった。戦争について調べ、体験者の講話を聞き、資料館を見学するなかで、それらが具体的でリアルなイメージに変化していった。それは、事前・事後におけるマインドマップに書かれたワードからも推察できる。具体的なイメージを持つことによって、また、生徒はそれぞれの活動に対して、丁寧に、真剣に取り組むことができたため、理解の深化につながったといえるだろう。「未来の平和のために」、自分たちが直接見聞きし、学んだことを後世に伝えていく義務感を持った生徒が多くいた。

しかし、平和についての学習は進んだものの、国際理解についての学習は十分でなかったようである。平和と国際理解の関係を考え、具体的にどう行動できるかを考えることが今後の課題である。

